

令和6年度 稲城市立向陽台小学校 授業改善推進プラン全体計画 (2024年9月1日)

各教科の指導の重点

- 学習指導要領を「学びの地図」とし、児童の興味関心を「学びの地図」を進む資源とし、主体的・共創的に「学びの地図」を歩むことをとおし、学ぶ喜びや分かる楽しさを感じ得る指導を行う。
- 各教科等における「見方・考え方」を働かせ、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力・判断力・表現力を豊かなものとし、社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりする。
- 各学年で育むべき「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力、人間性等」を確実に培うため、適切な学習評価を行う。
- 学校図書館及び地域公共図書館を学習センターとして、学校図書館活性化推進員を活用し、主体的に学ぶ態度や言語能力の育成を図る。
- タブレット端末、ICT機器を活用し、個別最適化された学びの実現に努める。
- 学力調査等の考察から全教職員が課題認識を共有し、授業改善プランを作成・実施し、授業改善に努める。
- 体力・運動能力等の考察から全教職員が課題認識を共有し、体力・運動能力等の向上の具体的な方策を実施する。
- 次の視点からカリキュラムマネジメントを実施し、効果的な年間指導計画を立案する。
  - ㊦教科等横断的な視点
  - ㊧PDCAサイクルの確立
  - ㊨人的・物的資源の効果的活用

学校の教育目標

- よく考える子ども (学びの目的に向かい、主体的に自己調整を図りながら、他者と共創的に学ぶ子供)
- 思いやりのある子ども (自尊心をもち、人の喜びを自分の喜びとし、人の悲しみを自分の悲しみとすることのできる子供)
- たくましく生きる子ども (進んで心身の健康の保持増進に努め、困難を乗り越えるレジリエントな子供)

本校の学力向上における課題

- ① “本質的な理解”を実現する授業改善の必要性
  - ・児童アンケート「先生はわかりやすく勉強を教えてくれる」に対する肯定的評価が、91.0%にもかかわらず、学力調査の結果に相関がみられず、学習内容に対して、構造化された応用可能な、他者に説明ができる質の高い理解(“本質的な理解”)を促す授業改善が求められる。
- ② “学習エージェンシー”を育む授業改善の必要性
  - ・児童が、自らの学ぶ責任を自覚し、めあてを立て、他者とのかかわりの中で粘り強く取り組み、振り返り、学び続ける力(“学習エージェンシー”)を育む授業改善が求められる。

本校の学力向上の目標

“本質的な理解”と“学習エージェンシー”を育む授業の実現

取組目標(成果指標)

- 1 “本質的な理解”の育成
  - (1) 東京ベーシックドリルの全学年の平均正答率を令和5年度より5ポイント向上させる。
  - (2) 算数科期末テストの全学年の正答率変化を令和5年度より5ポイント向上させる。
  - (3) 学校評価(児童)「宿題をするとき、どこをやるか、どうやってやるか、わからなくなってしまうことがある。」に対する肯定的回答を80%以上にする。
- 2 “学習エージェンシー”の育成
  - (1) 学校評価において、“学習エージェンシー”に関する意向の項目を取組指標とする。
    - ・学校評価(児童)「期末テストにおいて、自分の目標が達成できた」に対する肯定的回答を80%以上にする。
    - ・学校評価(児童)「努力すれば、もっと学習ができるようになると思う。」に対する肯定的回答を80%以上にする。
    - ・学校評価(児童)「1時間に1回以上、挙手した。(自分の考えを表現した)」に対する肯定的回答を80%以上にする。
    - ・学校評価(児童)「学習は、自分の夢や希望をかなえるために自分からすすんでするものだと思う。」に対する肯定的回答を80%以上にする。
  - (2) 「学びに向かう力等に関する意識調査」(東京都)を分析し、学習エージェンシーの向上について考察する。
    - ・抽出項目において、令和7年度の肯定的回答を令和6年度より5ポイント向上させる。

特別の教科 道徳

- 「特別の教科 道徳」を要として、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動等、教育活動全体を通じて、道徳教育を実践する。
- 「特別の教科 道徳」のねらいを十分理解し、児童が、自らにひきつけ考え、意見を交流し合い、児童の内面に根ざした道徳性及び道徳的実践力の育成に努める。
- ソーシャルスキルトレーニングを系統的に実施し、道徳的な実践態度の育成を図る。

外国語活動・外国語の重点

- 外国語活動 コミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの豊かな言語活動を実現する学習を重視する。
- 外国語科 コミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの豊かな言語活動を実現する学習を重視する。

総合的な学習の時間

- 育てたい資質・能力
  - ㊦学びのための学習方略(課題設定力・情報収集力・分析力・表現力)
  - ㊧自分らしく生きる力(意思決定力・計画実行力・自己理解力・将来設計力・課題発見能力など)
  - ㊨他者や社会とかかわる力(他者理解力・協同力・共生力・社会参画力課題解決能力)
- 探究プロセスを踏まえた学習展開を実現する。
- 「総合的な学習の時間全体計画」に基づいたつきたい力を明確にした学習と評価の充実を図る。

取組指標(成果指標)を実現するための手立て

<p>1 稲城市教育研究奨励校としての実践「教えて考えさせる授業」を通して</p>	<p>2 ベーシックドリルを活用した“本質的な理解”の状況の検証</p>	<p>3 「ポモドーロタイム(帯学習)」による習得確認</p>	<p>4 向陽台小指導文化の共通実践「校内留学」制度による指導力向上</p>	<p>5 「学び方講座」～自分らしい勉強の仕方をみつけよう～(総合)</p>
<p>&lt;具体的な手立てを考える視点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教えて考えさせる授業」(「OKJ」)の理論と授業構造について研究を深め、研究テーマ「“本質的な理解”と“学習エージェンシー”を育む授業の実現」に迫る。</li> <li>・稲城市教育研究奨励校として「OKJ」の理論と授業構造について、稲城市立小中学校教員に向け、発表し、稲城市の教育の推進に寄与する。</li> </ul> <p>&lt;「OKJ」の学習構造&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 予習(めあてを見通す、先行オーガナイザー、動機付け)</li> <li>2 めあてを立てる</li> <li>3 教師説明(教師が本時の学習の本質を伝える)</li> <li>4 理解確認(児童が説明し合い、理解を確認する)</li> <li>5 理解深化(応用課題を解く)</li> <li>6 まとめ(めあてと対応した自分らしいまとめ)</li> <li>7 振り返り(学び方、内容理解の程度を振り返る)</li> </ol>	<p>&lt;具体的な手立てを考える視点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベーシックドリル(診断シート)の活用&lt;実施時期とそのねらい&gt;                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・3月上旬(シートA) “本質的な理解”の状況を確認する。(児童のメタ認知、教員の授業評価)</li> <li>・3月中旬(シートB) “本質的な理解”の定着</li> <li>・4月上旬(シートC) “本質的な理解”の確認(児童の自己効力感の醸成、教師の児童理解)</li> </ul> </li> </ul>	<p>&lt;具体的な手立てを考える視点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水曜日を除く週4日の昼休み後に15分間の帯学習時間を設定する。</li> <li>・算数科は、タブレットドリルを活用し、即時に回答の正誤を確認し、誤答はその理由を考え量にする。</li> <li>・国語科は、10分で回答できる量の初見の文章問題に取り組み、応用可能な基礎・基本の習得状況を確認する。</li> <li>・学力向上委員会において「ポモドーロタイム」の毎学期、実施状況、児童の学習状況を検討し、効果測定を行う。</li> </ul>	<p>&lt;具体的な手立てを考える視点&gt;</p> <p>&lt;向陽台小指導文化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンドサインを用いた主体的学び</li> <li>・一人一人の「分かり」を大切にされた指導(評価規準を明確にした授業)</li> <li>・応じた指導(要配慮児童を含む)</li> </ul> <p>&lt;「校内留学」制度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チューター教員の指導を丸1日を基本単位として参観し、学習指導力、生活指導力、児童理解力、学級経営力を学ぶ。</li> <li>・チューター教員は、指導を受ける教員が指名することができる。</li> </ul> <p>※ 学年内の主任と教諭等の関係はメンター制度として、長期間にわたり、職務能力の他、職務への取り組み方やモチベーションの維持・向上、キャリア形成の方法などについても指導する。</p>	<p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)自己調整的に学ぶことの大切さや学習方略のよさを理解できるようにする。</li> <li>(2)学習に対する自らの課題(「困り感」)や学習活動の目的に応じて、学んだ学習方略を選んだり、使ったりしようとする。</li> <li>(3)学習に対する自己効力感や自己有用感を高め、主体的・共創的に学習にかかわろうとする。</li> </ol> <p>&lt;対象&gt; 4年生・5年生・6年生</p> <p>&lt;時間&gt; 概ね20時間/年</p> <p>&lt;カリキュラム&gt; 別紙参照 指導資料参照 (フォルダに保存済み)</p> <p style="text-align: right;">細案提案 校長</p>